

インフレと新しい社会構造への転換

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらは、インフレは今後拡大し、アメリカの金利政策と日本の金利政策において、自国財政と今後の経済構造への転換は実現されると予測する。

これら新しい経済における現実、技術の進歩と高価格における経済構造への転換であり、自由貿易システムはこれら現実とともに、その大きなプレゼンスを提供するのである。

これは、消費者需要は、先端トレンドを追従するものであるが、これらはインフレと共に、完全な社会の2分化を現実とするはずである。

ここで留意すべきは、日米の金利差である。これら新しい現実に対して、これら金利差は、経済における資金の流出を永続するのである。しかしこの金利政策を行わない限り、経済の維持は出来ないのである。これらは、アベノミクスは、悪魔の誘惑であることは、正しいのである。

他方においてこれら先端性は、全ての企業における自己基準であり、これら現実を否定することはできない。自由経済システムは、そのコントロールを失い、新しい現実を創造したのである。

他方においてこれら新しい現実における社会的弱者は、民主主義における歩ピュラリズムへの迎合が予想される、梟雄という新しい王たちの誕生である。

これらは富の格差という矛盾が、先端性への憧憬において、否定されるならば、競争というルールが唯一世界を支配するのである。

これらメビウスリングは、崩壊を必ず有するのである。世界の崩壊である。これらは社会システムの矛盾という誤りが、世界の維持を失うことなのである。